

福井県立小浜水産高等学校の現状と取り組み

1 福井県立小浜水産高等学校の概要

本校は明治 28(1895)年創立、「日本で最初にできた水産高校」である。校訓「質実剛健」の伝統のもと、水産・海洋教育を通して社会に貢献できる人材育成を教育目標としている。

生徒数は全校で 216 名。「小さくとも輝く学校」をめざし、「県内唯一の水産高校」の特色を活かした教育、部活動、地域貢献活動等を展開している。

2 沿革

明治28(1895)年	福井県簡易農学校の分校として水産科設置。遠敷郡雲浜村竹原にて授業開始。
明治32(1899)年	独立して福井県立小浜水産学校と改称。
昭和13(1938)年	今富村伏原へ校舎移転改増築工事完成。
昭和23(1948)年	学制改革により福井県立小浜高等学校(水産科)となる。
昭和24(1949)年	福井県若狭高等学校が設置され同校水産科と改称。
昭和28(1953)年	福井県若狭高等学校より分離独立して、福井県小浜水産高等学校となる。
昭和32(1957)年	校名変更により福井県立小浜水産高等学校と改称。
昭和38(1963)年	小浜市堀屋敷に校舎移転。
昭和43(1968)年	女子生徒を募集する。
昭和46(1971)年	専攻科漁業科を設置。
昭和62(1987)年	海洋漁業科、栽培漁業科、食品工業科、水産経済科の四学科となる。
平成4(1992)年	小型実習船「あおば」19トン竣工。
平成7(1995)年	大型実習船「第6代雲龍丸」499トン竣工。
平成9(1997)年	海洋科学科(マリンテクノコース・マリンバイオコース)、食品工業科、水産経済科の三学科となる。

3 学科構成

(1) 海洋科学科 ① マリンテクノコースは、漁業・海洋資源・船舶の運航等を学ぶコース。

② マリンバイオコースは、海洋生物資源の管理と培養等を学ぶコース。

(2) 食品工業科は、食品の加工・貯蔵等を学ぶ学科。

(3) 水産経済科は、水産物の流通・販売等を学ぶ学科。

※ 専攻科漁業科 船舶運航に関する知識・技能を修得し、三級海技士の資格取得を目標とする。
(2年制。1年半乗船、半年座学) 20人以上の大型船舶職員養成。水産科全体から入学可能

4 生徒数(平成22年4月現在) ()内は女子(約4割)

	海洋科学科	テクノ	バイオ	食品工業科	水産経済科	合計	専攻科
1年	30(0)	10(0)	20(0)	25(16)	22(6)	77(22)	4(0)
2年	27(2)	8(0)	19(2)	24(20)	18(11)	69(33)	1(0)
3年	21(2)	7(0)	14(2)	25(18)	19(9)	65(29)	
合計	78(4)	25(0)	53(4)	74(54)	59(26)	211(84)	5(0)

5 学習状況

- (1) 基礎学力向上に向けた取り組み…朝学習・朝読書など、基礎・基本の定着、ていねいな指導。
- (2) 専門教科…専門科目・実習により知識・技能や人間性を高める。資格取得を重視。
 - ① 校外実習、インターンシップ、課題研究（生徒研究発表大会、地区優秀賞）
 - ② 航海実習…【大型実習船】遠洋マグロ延縄漁業実習、韓国ポハン海洋科学高校との国際交流、九州～瀬戸内海等沿岸航海実習、島根県隠岐（1年全員）【小型実習船】イカ釣り実習・操船
 - ③ 地域産業の担い手育成事業…生徒の現場実習、技術者等の学校での指導、教員の現場研修

6 進路状況（平成21年度卒業生…進学43%、就職54%、その他3%）

例年は進学3～4割、就職6～7割。就職に直結する専門学校進学者多い。地元企業就職者多い。

大学科名	4年制大学			短期大学		専修学校等	就職		その他 (浪人等)	総計
	国立	公立	私立	公立	私立		県内	県外		
水産	0	1	4	0	3	21	26	11	2	68

※進学…福井県立大、名古屋産大、愛知工大、金沢学院大、富山国際大、若狭高看、本校専攻科他

※就職…宮島網、黒瀬水産、ユニバーサル造船、海上自衛隊、小浜製網、山崎製パン、関西電力他

7 特別活動、部活動等の状況

生徒の活動が新聞、テレビ等で紹介→生徒の自信、本校をアピール、学校の活性化に貢献。

- (1) 行事…カッター大会（漁業者参加）、水高祭（水産物販売）、修学旅行（沖縄でダイビング等）
- (2) 部活動等…
 - ・ボート部…全国トップレベル。全国高校総体(ダブルスカル男子2位、女子3位)。国体(女子ダブルスカル優勝、クォドルプル男子3位、女子4位)。世界ジュニア出場。アジアジュニア(男子ダブルスカル2位)。全国選抜(女子ダブルスカル優勝、女子シングルスカル3位)
 - ・ウエイトリフティング部…オリンピック選手、全国トップレベルOB輩出。全国選抜大会3位。
 - ・ヨット部…全国高校総体、国体出場
 - ・ダイビングクラブ…小浜湾アマモマーメイドプロジェクト（小浜湾水質浄化活動を地域住民、行政、小中学生等と協力して実施。定植、種取、啓発活動、出前授業、研究発表）

8 特色ある取り組み 地域産業担い手育成事業、課題研究等を活用して

- ・LED漁灯（環境にやさしいイカ釣り、大学、企業、漁業者との連携）
- ・人工海藻（若狭カキの復活、環境浄化、企業、漁業者との連携）
- ・サバ養殖（大学、試験研究機関、漁業者、企業との連携）
- ・宇宙食（JAXA指導、宇宙キャラメル）
- ・サバカレーなど食品開発（小浜市、企業との連携）

9 今後の課題と対応方針

- (1) 日々の学習指導・生徒指導・進路指導を充実させ、地域から信頼される学校にする。
 - きめ細かい指導、実習で鍛える。
- (2) 水産高校の特色を活かし、学校の魅力を高める。→実習船の活用、学校PR、生徒募集の充実。地域・産業界・大学・関係機関との連携を深める。

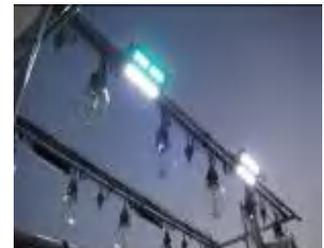
小浜水産高等学校取組み

福井県立小浜水産高等学校

本校における企業、地域住民、大学や研究機関との取り組みを以下に示す。取り組みは、本校生徒が主体となり、研究活動やボランティア、出張授業の形で実施している。大学などの研究機関よりも水産の現場に近い本校ならではの発想で商品開発などを行い、また、教育的なノウハウを活かすことで専門的内容をよりわかりやすく地域へ還元、一般化している。生徒たちは、これらの活動を通じて自分たちの知識技術を発揮し、考えを巡らすことで、地域、社会に必要なとされているという充実感、満足感を学び、社会に貢献したいという職業観を身につけている。

海洋科学科マリンテクノコース

- ・「LED漁灯による省エネイカ釣り漁業の共同研究」
(東京海洋大学海洋科学部・東和電機・地元漁業者)
- ・「若狭湾の海底湧水調査」(福井県立大学海洋生物資源学部)
- ・「若狭湾の湧昇流調査」(福井県立大学海洋生物資源学部)
- ・「大学生の乗船体験」(福井県立大学海洋生物資源学部)



LEDによるイカ釣り漁業

海洋科学科マリンバイオコース

- ・「マサバの養殖技術の開発」
(福井県立大学海洋生物資源学部・地元養殖業者)
- ・「宇宙空間におけるミジンコの発生について」(JAXA)
- ・「マガキの養殖環境改善」(地元養殖業者・サカイオーベックス)
- ・「回転ずしへの展開(マサバ・ヒラメ等)」(地元企業)



マサバの養殖技術研究

食品工業科

- ・「へしこの新商品開発」(福井県立大学海洋生物資源学部)
- ・「地場産海産物の給食への利用」(福井県立大学海洋生物資源学部)
- ・「エチゼンクラゲの有効利用・商品化」
えくらちゃんさくさくクッキー、えくらちゃん潮羽二重餅
- ・「HACCPシステムによる鯖缶詰製造」
- ・「地場産魚介類を使用した宇宙食の開発」(JAXA)



星出宇宙飛行士から激励サイン

水産経済科

- ・「本校実習製品の販売実習」
- ・「新商品開発(パッケージデザイン等)」
若狭のシーフードカレー作製



えくらちゃんさくさくクッキー

その他

- ・「アマモの定植技術の確立」(福井県立大学海洋生物資源学部)
- ・「海洋教育についての情報交換」
(東京海洋大学海洋科学部海洋政策文化学科)

省エネ、魚集める青色透過

東京海洋大 小浜水産高生らに講演



LED灯を光の強さを調べる小浜水産高で。稲田准教授(左)と小浜水産高生ら。

漁業LED効果に驚き

消費電力が少ないLEDを使った漁灯の研究が、小浜水産高で進められている。稲田准教授(左)と小浜水産高生ら。LED灯を使った漁灯の研究が、小浜水産高で進められている。稲田准教授(左)と小浜水産高生ら。

小浜水産高の「サバ缶」宇宙へ!

NASAが助成 食品管理システムHACCP取得



本格製造を開始

上砂に

2009年(平成21年)9月10日 木曜日 13版

小浜水産高 生徒ら取り組み

微生物・ナマコ活用

人工海藻でヘドロ一掃



カキ復活へ期待

アマモ海へ続けて浄化



小浜水産高生ら20人、種採取

潜り2万粒、来春湾に定植



小浜のミジンコ宇宙へ

水産高が宝

11日打ち上げ 半年後里帰り

大型クラゲでクッキー 大ヒット



売り上げ予想の4倍 第2弾検討

大阪・県物産展でも注目

1 小浜水産高校の教育課程

(※ ●:必修 □:一部選択 △:選択)

区分	海洋科学科						食品工業科			水産経済科			内容	
	マリンテクノ			マリンバイオ			1年	2年	3年	1年	2年	3年		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年								
水産	水産基礎	●			●			●			●			<ul style="list-style-type: none"> ・海のあらまし ・水産業と海洋関連産業のあらまし ・基礎実習(雲龍丸による基礎航海実習)
	水産情報技術	●			●				●			●		<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器、情報通信ネットワークの基礎知識 ・ソフトウェアの基礎知識
	航海・計器	●	●	□										<ul style="list-style-type: none"> ・航海の仕組み ・基本航海計器 ・航法、航海関係法規
	栽培漁業				●	●	●							<ul style="list-style-type: none"> ・水産増養殖に関する知識技術の習得
	福井の水産	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目 ・経営者の講話、企業現場の見学、企業からの技術指導、地元水産関連企業との共同研究等
	水産食品製造							●	●	□		△		<ul style="list-style-type: none"> ・水産食品の製造に関する知識技術の習得
	水産食品管理							●	●	△				<ul style="list-style-type: none"> ・水産食品の品質管理と安全管理に関する知識技術の習得
	総合実習		●	●		□	●		●	●		●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業乗船実習(マグロ延縄等) ・水産生物育成実習(カキ・サバ育成等) ・魚介類加工実習(サバ味付缶詰、新巻鮭) ・漁業生産実習(イカ釣り等) ・漁獲物処理実習(カキ打ち等) ・農産物加工実習(イチゴジャム) ・教科内実習(釣り糸の結着、編網等)
	漁業		●											<ul style="list-style-type: none"> ・漁業に関する知識技術の習得 ・座学、実習、実地見学等実施
	漁船運用		●	□										<ul style="list-style-type: none"> ・船舶の構造、設備、機能の知識修得 ・操船、保守、整備に関する技術習得
	水産生物					●	●							<ul style="list-style-type: none"> ・水産動植物、プランクトン等の知識修得
	ダイビング						△						△	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイビングに関する基礎的知識技術の習得
	課題研究			●			●						●	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らが興味、関心ある課題を設定 ・調査・実験研究、作品制作、実験、資格取得等により問題を解決する学習
	海洋環境													<ul style="list-style-type: none"> ・海洋、陸水の環境に関する知識技術の習得
操船												△	<ul style="list-style-type: none"> ・小型船舶の操縦に関する知識技術の習得 	
水産流通									●			△	<ul style="list-style-type: none"> ・水産物流通に関する知識技術の習得(流通組織、市場機構、水産物の価格形成等) 	
商業	ビジネス基礎										●			
	簿記										●			
	商業技術											●	△	
	マーケティング											●		
	会計											△		